「研究機関等体験事業」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」

熊谷女子高等学校　平成 22 年 10 月 17 日（日）　実施

熊谷女子高の生徒さんが来学され、平成２２年度「研究機関等体験事業」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」が行われました。

杉林薬学部長からから来学された生徒さんへの挨拶

城西大学薬学部において、平成 22 年 10 月 17 日（日）に行われました、平成 22 年度「研究機関等体験事業」城西大学薬学部で学ぶ「生命と薬」に、熊谷女子高等学校の 1、2 年生の生徒さん 35 名と先生方 2 名が参加され、くすりに関する２つのテーマの実習を体験されました。

実習風景1（テーマ1）

体験実習は、薬学部棟６号館で、下記2テーマを午前と午後に分けて、終日実施しました。それぞれのテーマの概要は以下のとおりです。

テーマ1．くすりのことをよく知ろう－散剤や軟膏混合調剤を体験しよう！

実習風景2（テーマ1）

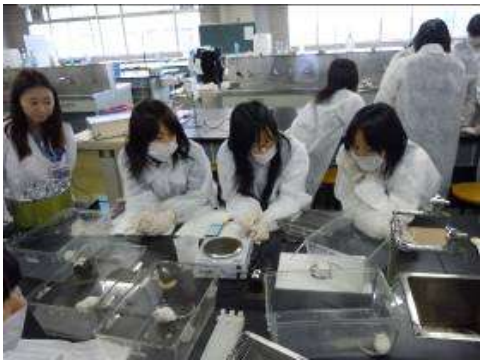
薬剤師の主な仕事は、ただ単に処方された薬を患者さんに渡すことだと思われがちですが、その内容は、薬の用途や患者さんの容態によって様々な対応が必要になります。例えば、処方箋の受付から調剤録の作成、調剤過誤を防ぐためにも、疑問点（製剤の安定性や飲み合わせなど）なく調剤を行うこと（疑義照会）、また調剤がきちんと執り行われているかどうかを確認すること（薬剤鑑査）が重要です。さらに、調剤の内容を患者さんに理解していただくことで、医薬品が正しく服用され、効果が現れます。すなわち服薬指導、薬歴管理を行なうことによって、調剤過誤を防ぎ、薬の適正使用ができるのです。 このように薬剤師は、薬に関して、リスクマネジメントを行なって

実習風景3（テーマ 1）

います。その他にも医薬品の供給や薬事衛生、学校薬剤師などの業務があります。その為、薬剤師は日本の医薬品供給に不可欠な存在と言えるでしょう。このように薬剤師の業務は多岐に渡ります。今回は、そのような薬剤師の多くの仕事の中から、特に調剤業務について、軟膏剤を中心に学習しました。その内容は、複数の色々な性質の軟膏剤と軟膏基剤を、実際に軟膏板と軟膏ベラを使用して混合し、それらを容器につめて、重量を計り、混合の可否を判断したり、混合による安定性の低下や効果の減弱の有無を調査しました。またアスコルビン酸を散剤にみたて、天秤を使用して正確に計ったり、薬さじを使用して分取し、天秤量と比較し、さらに薬包紙の使用方法などについても学習しました。

実習風景4（テーマ2）

実習風景 5（テーマ2）



実習風景 6（テーマ2）

修了証書授与式の様子

テーマ2. けいれん発作をくすりでコントロールしよう！

私たちの体の働きを調節している脳は、時として特定な場所で異常な興奮を起こし、あたかも電気の配線がショートしたような状態になります。そのために、体がけいれんをしたり、意識を失ったりすることがあります。これがてんかん発作です。脳がなぜこんな状態におちいるのか、非常に不思議な現象といえます。原因の一つに薬物による脳の刺激があります。今回の実習では、マウスにけいれんを起こさせる薬物(けいれん誘発剤）を投与して、けいれんにいたるまでの行動の変化、けいれんの特徴を観察しました。また、抗てんかん薬と呼ばれるけいれんを抑える薬物を用いて、けいれん誘発剤に対する作用も観察しました。この結果、抗てんかん薬の作用と、脳の体に対する調節機能としての『神経系の恒常性の維持』について学習しました。同時に、我々人間に用いられる医薬品の開発は、このよう

に数多くの動物の犠牲の上に成り立っているとも少なくありません。

このような生命倫理についても学習しました。

どちらのテーマでも、生徒の皆さんは、大変、熱心に実験に取組んでおりました。

薬草園見学の様子

また、短い昼休み時間には、薬草園や模擬ドラックストアなども、熱心に見学されておりました。

模擬ドラックストアで、ハイピース！

体験実習終了後は、修了証を受け取り、日程を終了しました。

今回の体験を通じて、今後のために役立つ何かを得ていただけたら幸いです。また、機会がありましたら是非もう一度城西大学薬学部へお越しください。教員一同お待ちしております。

お帰りの前に記念撮影